

公益社団法人 日本材料学会 支部功労賞受賞

九州工業大学大学院生命体工学研究科 特任教授 中野 光一 氏

於：(公社)日本材料学会 第67期通常総会（高知工科大学永国寺キャンパス）

国立大学法人九州工業大学大学院生命体工学研究科へ出向中の中野光一氏が、当社では初めて公益社団法人日本材料学会平成29年度支部功労賞を受賞されました。2018年5月26日（土）に高知工科大学永国寺キャンパスで開催された日本材料学会 第67期通常総会で表彰され、その授賞式が行われました。

1. 受賞課題

「日本材料学会九州支部の活動実績と機能性材料の開発」

2. 授賞理由

中野氏は九州工業大学の特任教授として、企業と密接した研究を行うとともに、大学、民間企業、公共研究機関、複数の学会を含め、幅広く活動されています。

中野氏の企業での経験を踏まえた研究内容は実用性に富んでおり、金属系傾斜機能材料の物理的性質、Cu/Mo系複合材料の静的特性および疲労特性、短繊維強化チタン合金の機械的特性・耐食性および細胞適合性に関する研究、配管系におけるすみ肉溶接部の疲労特性、モリブデンおよび銅の拡散接合部の強度評価など多岐にわたります。傾斜機能材料に関する研究では、新しい傾斜機能性管継手などを考案し、熱膨張係数差の大きな異種材料接合部に生成する接合時の熱応力に起因する残留応力を分散させることにより、熱疲労特性などを大幅に改善させ、高分子材料（フェノール樹脂）と金属（銅）の接合も可能にしました。短繊維強化チタン合金に関する研究では、タングステン短繊維をTi6Al4V合金に分散させて1520MPaの引張強度を有する複合材料の生成を実現しました。配管系におけるすみ肉溶接部の疲労特性に関する研究では、ソケットすみ肉溶接部の片振り軸力引張疲労試験などにより、疲労強度に及ぼす溶接法、溶接材料、止端部の形状、および初層溶接部の影響、さらに臨界寸法、許容応力について指標を設定し、現場溶接に対する具体的な疲労損傷防止対策を講じました。最近では、高窒素ステンレス鋼溶融部の脱窒素による強度低下や耐食性低下を防止するため、スポット溶接法、スタッド溶接法などを適用した短時間溶接の検討を行い、実施工法の確立や高窒素ステンレス鋼の普及にも取り組んでいます。

また、中野氏は産業界向けの教育活動においても積極的に貢献しており、九州支部においては数多くの企画などを実施してきました。2014年の九州支部創立50周年においては、企業関係フォーラムを開催するなど、アイデアを発揮した記念事業や見学会の計画・実施などに尽力されました。2016年には第53期支部長に就任し、支部講演会、技術懇話会（市民公開）、疲労講習会などをはじめとした支部企画を計画・実行するとともに支部ホームページの刷新にも取り組まれています。これらの業績や地域での産官学連携活動および九州支部活動に対する貢献が評価され、日本材料学会支部功労賞の受賞に至りました。



第67期通常総会会場前にて



表彰盾

第 63 回 全国溶接技術競技会 表彰式

2017年10月に神奈川県で開催された第63回全国溶接技術競技会の表彰式が、2018年6月13日（水）に東京ガーデンパレスで行われました。本競技会には、当社から八幡支社の小林 和樹さんが被覆アーク溶接の部に出場し、第61回に続く2度目の優良賞の受賞となりました。

各都道府県を代表する112名の参加選手が被覆アーク溶接、炭酸ガスアーク溶接の2種目で『日本一の溶接士』の称号を競う本競技会は、溶接技術の向上と溶接技能の振興を図り、溶接の重要性を広く啓発するという趣旨のもと、毎年開催されています。

今後も本競技会において、当社の溶接士がさらに活躍することを期待します。



表彰状を受け取る小林さん

2018 年 都道府県 溶接技術競技会 成績

競技種目	都道府県	優勝者（所属）
被覆アーク溶接 管の部	千葉県	吉澤 幸大（君津支社）
被覆アーク溶接の部	福岡県	井上 裕貴（八幡支社）

当社は、溶接士育成の一環として、1972年の福岡県溶接技術競技会に参加して以来、各都道府県で実施されている溶接技術競技会に出場しています。本年は、第48回千葉県溶接技術競技会 被覆アーク溶接 管の部*で吉澤 幸大さんが、第59回福岡県溶接技術競技会 被覆アーク溶接の部で井上 裕貴さんがそれぞれ優勝しました。また、井上さんは福岡県代表として2018年10月20日（土）～21日（日）に山口県で開催された第64回全国溶接技術競技会に出場しました。

* 被覆アーク溶接 管の部は、千葉県のみの実施種目